学校整理番号(115)

動物看護科　昼間部

動物看護コース

3 年生シラバス

学校法人 中村学園
専門学校 ちば愛犬動物フラワー学園

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物形態機能学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	- 単位	後期	- 単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	- 単位					
	2年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	- 単位					
	3年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	2 単位					
担当講師	櫻井 峰香							
	実務経験	有	獣医師免許取得後、動物病院での勤務経験有。					
授業概要	動物形態機能学(N2)に引き続き、動物の身体の構造と働きを学ぶ。また国家試験対策も行う。						授業形式	講義
到達目標	動物の体の仕組みと働きの知識を更に深める。また、犬猫以外の動物について解剖学的・生理学的な違いを説明できる。							
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　1巻　動物形態機能学							

授業計画	授業内容
1	N2時のテストを返却し、答え合わせをする。
2	脳神経系について学ぶ。（末梢神経）
3	リンパ管系について学ぶ。
4～7	免疫学について学ぶ。（語句　システム　種類）
8～9	免疫学について学ぶ。（アレルギー）
10～11	免疫学について学ぶ。（ワクチン）
12～13	遺伝学について学ぶ。（基礎知識）
14	前期の内容を確認し、テスト対策を行う。
15	前期定期試験
16	定期試験解説
17～19	遺伝学について学ぶ。（法則　疾患）
20～21	比較解剖学について学ぶ。（各動物の特徴）
22～23	比較解剖学について学ぶ。（形態解剖学的な違い）
24～29	国家試験対策
30	後期定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や授業内テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト70～89点・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト60～69点・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物繁殖学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	- 単位	後期	- 単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	- 単位					
	2年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	- 単位					
	3年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	2 単位					
担当講師	桑原佐知子/青柳 紘枝							
	実務経験	有	動物病院と教育機関での勤務時の知識や経験を活かし、指導することができる					
授業概要	動物繁殖学とは何かという事から学び、繁殖学の必要な知識について学び、動物看護において、繁殖の知識を活かせるような基礎と応用について学ぶ。						授業形式	講義
到達目標	・正常な分娩・異常な分娩が分かり、必要に応じて助産ができるようになる。 ・出産に関わる時期の母体管理や新生子の管理について、飼い主へのアドバイスができるようになる。							
教科書・教材・服装等	プリント							

授業計画	授業内容
1	犬と猫の生殖器の基本的な構造を理解する
2	雌特有の生殖器の構造・機能・生理を理解する
3	雄特有の生殖器の構造・機能・生理を理解する
4～5	生殖機能調節に関わるホルモンについて理解する
6	犬猫の性成熟について理解する
7	犬の発情兆候と発情周期について理解する
8	猫の発情兆候と発情周期について理解する
9～10	受精と妊娠について理解する
11	分娩と助産について理解する
12	帝王切開について理解する
13	去勢・不妊手術、人工授精について理解する
14	前期復習を行う（定期試験）
15～16	新生子の解剖学的特徴を理解する
17～20	新生子の生理的機能を理解する
21	新生子の飼育管理を理解する
22～23	遺伝について復習する
24～25	遺伝性の異常や疾患を理解する
25～26	国試対策－オス・メス特有の生殖器に関する問題が解けるようになる
27～28	国試対策－犬猫の繁殖周期や性ホルモンに関する問題が解けるようになる
29	国試対策－受精～妊娠～出産に関する問題が解けるようになる
30	後期復習を行う

成績評価方法		定期試験		
	・出席率		○	筆記試験
	・定期試験			実技試験
				実施しない

成績評価基準		
	A評価	出席率90％以上・定期試験正答率90％以上
	B評価	出席率90％以上・定期試験正答率80％以上
	C評価	出席率90％以上・定期試験正答率70％以上
	F評価	出席率80％以下・定期試験正答率60％以下

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	産業動物学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	- 単位	後期	- 単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	- 単位					
	2年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	- 単位					
	3年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	2 単位					
担当講師	琴寄 昌子							
	実務経験	有	動物病院勤務の中で培った知識、技術をもとに看護師として必要な知識の習得にいかす					
授業概要	産業動物について、看護の観点から学ぶ						授業形式	講義
到達目標	各分野の意義や　各動物の特徴を学習する							
教科書・教材・服装等	なし							

授業計画	授業内容
1	2年次復習
2	産業動物　山羊・羊　品種、飼養管理
3	産業動物　山羊・羊　疾病、山羊と羊の相違点
4	産業動物　豚　品種、解剖学的特徴
5	産業動物　豚　生理、疾病
6	産業動物　鶏　品種、生理
7	産業動物　鶏　飼養管理、疾病
8	産業動物　疾病に関する国際機関、家畜伝染病について復習
9	産業動物　福祉
10	産業動物　反芻動物の復習
11	産業動物　比較解剖学
12	産業動物　疾病まとめ
13	産業動物　テストまとめ
14	テスト
15	テスト返却と解説

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	実験動物学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	1 単位		
		通年	-	単位				
担当講師	琴寄 昌子							
	実務経験	有	動物病院勤務の中で培った知識、技術をもとに看護師として必要な知識の習得にいかす					
授業概要	実験動物について、看護の観点から学ぶ						授業形式	講義
到達目標	各分野の意義や　各動物の特徴をまなぶ							
教科書・教材・服装等	なし							
授業計画	授業内容							
1	実験動物とは							
2	生物多様性について							
3	実験動物　まとめ							
4	実験動物　概論							
5~6	実験動物　遺伝							
7~8	実験動物　施設							
9~10	実験動物　実験法							
11~12	実験動物　感染症							
13~14	実験動物　使用される動物							
15	まとめ							
成績評価方法	・出席率				定期試験	○	筆記試験	
	・定期試験や小テスト						実技試験	
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）						実施しない	
成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている						
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通						
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る						
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合						

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物医療関連法規						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	2	単位				
担当講師	先崎 仁思							
	実務経験	有	厚生労働省で食品衛生法、旧薬事法の行政に約20年携わっていた。その後、環境省へうつり動物愛護管理室を経て講師として法律の授業を担当					
授業概要	愛玩動物看護師が行う獣医医療関連業務とその根拠法令を理解し、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として法令順守の精神を養う。また、社会人としての知っておくべき法規についても学習する。						授業形式	講義
到達目標	動物病院において、法規制分野からの提案者になれる動物看護師を目指す。							
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書（EDUWARD Press）５巻							

授業計画	授業内容
1	法令について学ぶ。
2 ～ 3	獣医師法について学ぶ。
4 ～ 5	獣医療法について学ぶ。
6 ～ 7	動物の愛護及び管理に関する法律について学ぶ。
8 ～ 9	愛がん動物の健康の確保のための飼料の安全性の確保に関する法律について学ぶ。
10	身体者補助犬法について学ぶ。
11 ～ 12	狂犬病予防法について学ぶ。
13 ～ 14	(13)家畜伝染病予防法について学ぶ。 (14)前期定期試験
15	国民生活という観点から食品衛生法を学ぶ。
16	国民生活という観点からと畜場法、食鳥検査法、水道法、下水道法を学ぶ。
17 ～ 18	旧薬事法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）について学ぶ。
19 ～ 20	動物医療現場から排出される廃棄物体系について産業廃棄物法を学ぶ。
21 ～ 22	鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する法律、ワシントン条約の関連の野生保護系の法律と条約について学ぶ。
23 ～ 24	民法における各種申請業務、契約業務に関連する法律について学ぶ。
25 ～ 28	動物看護の科学的手法、動物看護者の業務指針について学ぶ。
29	後期総復習を行う。
30	後期定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物薬理学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	- 単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	- 単位				
	2年	前期	- 単位	後期	- 単位		
		通年	- 単位				
	3年	前期	- 単位	後期	- 単位		
		通年	2 単位				
担当講師	森本　正樹						
	実務経験	有	動物病院に勤務経験を活かし、実践的に指導することができる				
授業概要	薬物が生体のホメオスタシスに及ぼす影響を知り、病気の治療に役立つ知識を学ぶ					授業形式	講義
到達目標	薬剤の基本的な作用、機序、動態、使用方法などについて理解する						
教科書・教材・服装等	なし						

授業計画	授業内容
1～5	薬理学概論（2年次復習）
6	神経細胞とシナプス
7～8	末梢神経に作用する薬　（コリン作動薬、アドレナリン作動薬）
9	局所麻酔薬
10	筋弛緩薬
11	中枢神経に作用する薬　全身麻酔薬
12	鎮静薬　抗痙攣薬
13	問題行動治療薬
14	鎮痛薬
15	前期試験
16	呼吸器に作用する薬
17～18	循環器、泌尿器に作用する薬（強心薬、利尿薬）
19～21	消化器に作用する薬（制吐、止瀉、肝・胆・膵）
22	オータコイド、ホルモン
23～24	血液に作用する薬
25	抗炎症薬
26	免疫機能に作用する薬
27	抗菌薬、抗真菌薬
28	抗寄生虫薬（内外）、抗原虫薬
29	消毒薬、抗腫瘍薬
30	後期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・国試模擬試験			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施する

成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物感染症学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	- 単位	後期	- 単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	- 単位					
	2年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	- 単位					
	3年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	2 単位					
担当講師	櫻井 峰香							
	実務経験	有	獣医師免許取得後、動物病院での勤務経験有。					
授業概要	動物感染症学(N2)に引き続き、病原体（ウイルス）について学ぶ。 また時事問題についても理解し、国家試験対策も行う。						授業形式	講義
到達目標	ウイルスの生物学的な特徴や疾患を理解し、引き起こす疾患や予防方法を伝えられる。							
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　3巻　動物感染症学							

授業計画	授業内容
1	N2時のテストの返却と答え合わせを行う。
2	自然毒食中毒、化学性食中毒について学ぶ。
3	ウイルスの特徴について学ぶ。（構造、増殖過程、感染様式など）
4	ウイルスの特徴について学ぶ。（培養方法、治療薬など）
5～6	ウイルスの特徴について学ぶ。（診断法）
7～8	ウイルス感染症について学ぶ。
9～11	ウイルスが原因のズーノーシスについて学ぶ。
12	プリオンの特徴と疾患について学ぶ。
13	時事問題について学ぶ。
14	前期の内容を確認し、テスト対策を行う。
15	前期定期試験
16	定期試験解説
17~29	国家試験対策
30	後期定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト70～89点・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト60～69点・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	公衆衛生学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	2	単位				
担当講師	先崎 仁思							
	実務経験	有	厚生労働省で公衆衛生の一環である食品衛生監視行政に約20年携わった。					
授業概要	愛玩動物看護師が行う公衆衛生業務のうち、とくに感染症を理解し、自分と職場さらには周辺環境と飼い主をふくむ飼育環境を守るための知識を養う。						授業形式	講義
到達目標	動物病院等において、感染予防分野の提案者になれる愛玩動物看護師を目指す。							
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書（EDUWARD Press）５巻							

授業計画	授業内容
1	感染症対策、非感染症の疫学、サーベイランスについて学ぶ。
2	サーベイランスについて学ぶ。
3 ～ 4	病原体等に関する安全対策について学ぶ。
5 ～ 13	ウイルス、細菌、リケッチア、真菌について学ぶ。
14	前期定期試験
15	ウイルス、細菌、リケッチア、真菌について学ぶ。
16 ～ 18	寄生虫について学ぶ。
19 ～ 20	新興感染症と再興感染症について学ぶ。
21 ～ 25	狂犬病予防の重要性を学ぶ。
26 ～ 29	年間総復習
30	後期定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	救急救命対応						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	- 単位	後期	- 単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	- 単位					
	2年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	- 単位					
	3年	前期	- 単位	後期	1 単位			
		通年	- 単位					
担当講師	大野耕平・日下部浩之・田畑達彦・眞嶋理紗・大崎統雄・高橋佑輔・鈴木優生							
	実務経験	有	千葉seaside動物医療センターにて診療を担当。					
授業概要	動物看護師として緊急時に適切な対応を行えるようなるには十分な知識と経験が必用であり、緊急で運び込まれる動物と最初に接するのは大抵動物看護師である。いつどのような状況で生じるか予測できない。その際、慌てず適切に状態を判断して獣医師につなげ、自身は予測し得るあらゆる変化に対応できるよう準備をする必用がある。この科目ではこれらの救命救急を中心に、チーム医療を行うスタッフとして適切な知識を勉強する。						授業形式	講義
到達目標	当科目で学ぶ知識は、動物病院で緊急時に行われている実践的な内容であり、確実に理解したうえで吸収し緊急時の中でも慌てずに冷静かつ速やかに対応できる知識を身に付けることを目標とする。							
教科書・教材・服装等	PDFデータ、プリント、（教科書）　＊授業順序は予告なく入れ替わる場合がありますのでご了承ください。							

授業計画	授業内容	
1	緊急時におけるトリアージと看護師の果たす役割	： 日下部（9/29）後①
2	救命処置①【一次救命処置（循環、気道確保、人工呼吸）】	： 日下部（10/6）後②
3	救命処置②【二次救命処置（血管確保、薬物投与、除細動）】	： 日下部（10/13）後③
4	救命処置③【二次救命処置（モニタリング）】	： 日下部（10/20）後④
5	ショック	： 日下部（10/27）後⑤
6	麻酔管理	： 日下部（11/3）後⑥
7	麻酔管理②	： 日下部（11/10）後⑦
8	中毒、熱中症、その他の緊急疾患	： 鈴木優生（11/17）後⑧
9	消化器の救急	： 鈴木優生（11/24）後⑨
10	循環器の救急	： 高橋（12/1）後⑩
11	呼吸器の救急	： 田畑（12/8）後⑪
12	神経の救急	： 大崎（1/12）後⑫
13	泌尿器の救急	： 眞嶋（1/19）後⑬
14	外傷時の救急	： 大野（1/26）後⑭
15	後期総まとめテスト	

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や授業態度			実技試験
	・平均正答率を加味した定試験の合計点			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率90％以上・定期試験で学年での定期テストから割り出した偏差値による（おおよそ60以上）
	B評価	出席率85％以上・定期試験で学年での定期テストから割り出した偏差値による（おおよそ55以上）
	C評価	出席率80％以上・定期試験で学年での定期テストから割り出した偏差値による（おおよそ45以上）
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	外科動物看護学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	1 単位		
		通年	-	単位				
担当講師	關 繭子							
	実務経験	有	動物病院にて勤務医として６年勤務。					
授業概要	・動物看護の中でも特に外科的な看護を中心とし、周術期の術前・術中・術後における動物看護師に必要な知識を習得する。内容は外科動物看護実習と連動しており、実習に臨むための予備知識としての意味合いも持ち、講義だけでなく、画像や動画、実際の器具等を用いることで理解を深める。						授業形式	講義
到達目標	・動物の痛みを理解し、ペインコントロールに役立たせることがきるようになる。 ・麻酔モニターを使用した麻酔下動物の管理ができるようになる。 ・去勢手術、避妊手術の周術期における様々な補助ができるようになる。							
教科書・教材・服装等	授業プリント							

授業計画	授業内容
1	手術の準備と動物に対する手術前処置について学ぶ。
2	麻酔薬について学ぶ。
3	術後管理について学び、ペインコントロールの重要性を理解する。
4	輸液管理について学ぶ。
5	麻酔モニター①モニタリングの重要性と方法、ＥＣＧモニター、血圧モニター、パルスオキシメーターについて学ぶ。
6	麻酔モニター②カプノメーター、体温モニター、尿量モニター、五感を用いたモニターについて学ぶ。
7	去勢手術①去勢手術の意義、主な手術の流れや補助方法などについて学ぶ。
8	去勢手術②手術にむけて、動画を用いて更に理解を深める。
9	避妊手術①避妊手術の意義、主な手術の流れや補助方法などについて学ぶ。
10	避妊手術②手術にむけて、動画を用いて更に理解を深める。
11	外科的処置を必要とする疾患である乳腺腫瘍と子宮蓄膿症について学ぶ。
12	創傷とその治癒過程、創傷の管理に必要な看護知識について学ぶ。
13	骨折等の整形外科の補助に必要な知識を学ぶ。
14	エコーの原理と画像診断,ＣＴとＭＲＩの原理と画像診断について学ぶ。
15	総まとめテスト

成績評価方法	出席率（８０％を切るならば評価を一つ下げる）	定期試験	○	筆記試験
	定期テスト・小テストの点数			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	定期試験や小テスト80点以上
	B評価	定期試験や小テスト70点以上
	C評価	定期試験や小テスト60点以上
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物臨床看護学各論						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	1 単位		
		通年	-	単位				
担当講師	奥村衣里　加藤麻衣子							
	実務経験	有	動物病院に勤務経験を活かし、実践的に指導することができる					
授業概要	主要な症状別にその動物の特徴や看護法について学ぶ。 また死を迎える動物の看護法や飼い主への対応について学ぶ。						授業形式	講義
到達目標	その動物の性格や症状(病態)によって、管理の方法は変わる。その看護技術を学び、実践できたり、飼い主にアドバイスができるようになる。最終的にはどんな状態の動物であってもQOLの維持・向上を念頭に置き、動物が動物らしく暮らせるよう援助できる動物看護師を目指す。							
教科書・教材・服装等	配布プリント（タブレット）							

授業計画	授業内容
1	動物看護技術：在宅医療①
2	動物看護技術：在宅医療②医療廃棄物
3	輸血が必要な動物の管理
4	輸血が必要な動物の管理
5	担がん動物の管理
6	担がん動物の管理
7	心疾患のある動物の管理
8	慢性腎臓病な動物の管理
9	動物看護技術：死の看取りに必要な技術
10	動物看護技術：死の看取りに必要な技術
11	動物看護技術：ターミナルケア
12	動物看護技術：ターミナルケア
13	動物看護技術：グリーフケア
14	動物看護技術：グリーフケア
15	定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（授業態度など）			実施しない

成績評価基準	A評価	定期試験や小テスト80点以上
	B評価	定期試験や小テスト７０点以上
	C評価	定期試験や小テスト６０点以上
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科						コース名	動物看護コース	
科目名	動物疾病看護学						必修・選択必修の別		必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	-	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	3 単位
		通年	-	単位					
	2年	前期	-	単位	後期	-	単位		
		通年	-	単位					
	3年	前期	-	単位	後期	-	単位		
		通年	3	単位					
担当講師	大野耕平・日下部浩之・眞嶋理紗・丸山友里加・森								
	実務経験	有	千葉seaside動物医療センターにて診療を担当。						
授業概要	動物看護師として臨床現場で必要とされる疾病の知識について学ぶ。各分野（診療科）ごとに担当医が知っておくべき疾病を題材に用て、動物の基本的な解剖、生理、疾患、治療において国家試験に対応できる総合的な知識を養うことを目的とする。また、臨床検査・治療を学び、動物看護に活かしていける知識を身につける。							授業形式	講義
到達目標	動物看護師として臨床現場で遭遇する機会の多い疾患を学び、実践的な知識を身につける。								
教科書・教材・服装等	PDFデータ、プリント　＊授業順序は予告なく入れ替わる場合がありますのでご了承ください。								

授業計画	授業内容
1～2	動物疾病看護学総論／犬猫の生理学・解剖学総論（皮膚・骨格・筋・胸腔・腹腔）　：　大野（4/7）前①
3～4	筋骨格の解剖／関節の解剖　：　大野（4/14）前②
5～6	骨関節疾患①（骨折・脱臼）／骨関節疾患②（前肢の疾患・後肢の疾患）　：　大野（4/21）前③
7～8	消化器解剖生理／疾患①②(喉頭～胃)　：　日下部（4/28）前④
9～10	消化器解剖生理／疾患③④(十二指腸～直腸)　：　日下部（5/5）前⑤
11～12	消化器⑤⑥(肝臓、胆嚢、膵臓)　：　日下部（5/12）前⑥
13～14	消化器⑦⑧(肝臓、胆嚢、膵臓)　：　日下部（5/19）　前⑦
15～16	血液生理学／血液疾患 ①　：　眞嶋（5/26）　前⑧
17～18	血液疾患②　：　眞嶋（6/2）前⑨
19～20	皮膚の解剖学生理／皮膚疾患①（細菌・真菌・寄生虫）　：　大野（6/9）前⑩
21～22	皮膚疾患②③（アレルギー性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・その他の皮膚疾患）　：　大野（6/16）前⑪
23～24	泌尿器解剖生理　／泌尿器疾患 ①　：　眞嶋（6/23）前⑫
25～26	泌尿器疾患②③　：　眞嶋（6/30）前⑬
27～28	内分泌系の解剖生理／内分泌疾患①　：　森（7/7）前⑭
29～30	内分泌疾患②③　：　森（7/14）前⑮
31	前期総まとめテスト
32～33	循環器解剖生理／循環器疾患①　：　高橋（9/29）後①
34～35	循環器疾患②③　：　高橋（10/6）後②
36～37	呼吸器の解剖生理／呼吸器疾患①　：　田畑（10/13）後③
38～39	呼吸器疾患②③　：　田畑（10/20）後④
40～41	眼の解剖生理 ／眼疾患①　：　丸山（10/27）後⑤
42～43	眼疾患②③　：　丸山（11/3）後⑥
44～45	生殖器の解剖生理／生殖器の疾患①（避妊・去勢に関して）　：　丸山（11/10）後⑦
46～47	耳の解剖生理／疾患　：　朝倉（11/17）後⑧
48～49	歯科解剖生理／疾患　：　鈴木圭（11/24）後⑨
50～51	感染症　：　鈴木圭（12/1）後⑩
52～53	神経の解剖生理／疾患　：　大崎（12/8）後⑪
54～55	腫瘍学／腫瘍性疾患①　：　眞嶋（1/12）後⑫
56～57	腫瘍性疾患②③　：　眞嶋（1/19）後⑬
58～60	動物疾病看護学テスト対策・国家試験対策／後期総まとめテスト　：　大野（1/26）後⑭

成績評価方法				
	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や授業態度			実技試験
	・平均正答率を加味した定試験の合計点			実施しない

成績評価基準		
	A評価	出席率90％以上・定期試験で学年での定期テストから割り出した偏差値による（おおよそ60以上）
	B評価	出席率85％以上・定期試験で学年での定期テストから割り出した偏差値による（おおよそ55以上）
	C評価	出席率80％以上・定期試験で学年での定期テストから割り出した偏差値による（おおよそ45以上）
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	幼齢老齢動物管理						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	1	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
担当講師	渡邊愛海　中村琴音							
	実務経験	有	動物病院に勤務経験を活かし、実践的に指導することができる					
授業概要	・新生児期特有の看護技術や成長段階の各時期に最適な看護を学び、社会化期が一生涯の性格形成においてなぜ重要なのかを理解する。 ・医学の進歩で伴侶動物の寿命が延びていることから動物看護師として高齢動物に適切な介助ができるようにする。						授業形式	講義
到達目標	・新生児から老齢動物までのライフスタイルを学び、それぞれのライフスタイルに合わせた生活指導やアドバイスを飼い主様にできるようになる。・幼齢～老齢動物の適正飼養の方法身につける。							
教科書・教材・服装等								

授業計画	授業内容
1	授業概要説明、新生子について
2	幼齢動物の成長過程と健康チェック
3	人工保育に必要なケアと哺乳方法
4	新生子疾患と重症管理
5	老齢期の身体的変化
6	老齢期の適切な飼育環境
7	老齢期の日常生活における介護
8	老齢動物に多い疾患(犬猫)
9	認知症について
10	褥瘡管理
11	エンジェルケアと飼い主様のメンタルケア
12	授業内テスト
13	テスト返却、解説
14～15	課題提出

成績評価方法	・出席率	定期試験	筆記試験
	・定期試験や小テスト		実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）	○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100～90％以上・定期試験や小テスト100～90点・平常点 優れている
	B評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト79～60点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護学科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物生活環境学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	2 単位				
担当講師	乙守　智奈美						
	実務経験	有	獣医師。動物病院勤務。 獣医行動プラクティショナー				
授業概要	動物の行動様式を理解したうえで、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設および動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境の在り方を理解する。					授業形式	講義
到達目標	動物の行動様式を理解したうえで、飼養環境整備をはじめとする様々な環境においてその意義や管理方法等について理解する。						
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　10巻・配布資料						

授業計画	授業内容
1	自己紹介、授業の説明
2 ～ 7	飼養環境整備
8 ～ 10	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン
11 ～ 12	保護収容施設①
13 ～ 14	前期の復習
15	前期定期試験
16	テスト返却
17 ～ 18	保護収容施設②
19 ～ 22	ペットへの教育・訓練施設
23	動物介在教育施設
24 ～ 25	ペット飼育のマナー・事故やケガ等へのリスクへの対応
26 ～ 29	1年間の復習
30	後期定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率80％・定期試験90～100点
	B評価	出席率80％・定期試験75～89点
	C評価	出席率80％・定期試験60～74点
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物医療コミュニケーション						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	1	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
担当講師	青柳 紘枝							
	実務経験	有	動物病院に動物看護師として勤務していた際に身についた接遇の経験とスキルを活かし、実際にあったケースを交えながら指導することができる。					
授業概要	前年の動物医療コミュニケーションの授業を生かし、動物医療提供者として安心や信頼を与えられるような接遇を顧客心理を思慮しながら身につける。 また、マニュアル通りではなく、自ら考え自ら良い選択・行動がとれる社会人になるための実践力を養う。						授業形式	演習
到達目標	２年次動物医療コミュニケーションでの実践を活かし、飼い主様の立場に立ったホスピタリティあふれる接遇ができるようになる。看護師として今どのような接遇が的確なのかを自ら考えて実践できるようになる。							
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書（EDUWARD Press）8巻、共有資料							

授業計画	授業内容
1~2	クライアントエデュケーションとはなにか、アウトプットとはなにかを考え、アウトプットに必要なものを考える。
3～4	コミュニケーションの基本を復習し、クライアントエデュケーションの方法を学ぶ。
5~6	デンタルケアに必要な知識をまとめ、正しいデンタルケアが指導できるようになる。
7~8	体重管理に必要な知識をまとめ、減量・体重管理について指導できるようになる。
9~10	犬の混合ワクチン接種・狂犬病予防接種を勧めるために必要な知識をまとめ、指導ができるようになる。
11	猫の混合ワクチン接種を勧めるために必要な知識をまとめ、指導ができるようになる。
12	寄生虫予防を勧めるために必要な知識をまとめ、指導ができるようになる。（課題）
13~14	フィラリア予防を勧めるために必要な知識をまとめ、指導ができるようになる。
15~16	避妊去勢手術を勧めるために必要な知識をまとめ、指導ができるようになる。
17~18	慢性疾患の自宅でのケアについて学び、知識の復習を行う。
19	慢性疾患の自宅でのケアの知識の整理ができる。各疾患の飼い主役の準備をする。（課題）
20	慢性疾患の自宅でのケアについてアウトプットができるようになる。
21	カルテ管理の復習を行う。
22～23	薬のお渡しと指導の学習と実践を行う。
24~25	クレーム対応の学習と実践を行う。
26~27	緊急時の対応の学習と実践を行う。
28	動物病院内で発生する深刻な場面時の対応を学習する。
27	亡くなったペットの飼い主様への対応の学習と実践。

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実技試験
			○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率90％以上・平常点 優れている
	B評価	出席率90％以上・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・平常点 やや劣る
	F評価	出席率80％以下・平常点劣っている

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科						コース名	動物看護コース	
科目名	適正飼養指導論						必修・選択必修の別	必修	
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	4	単位
		通年	-	単位					
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位			
		通年	-	単位					
	3年	前期	-	単位	後期	- 単位			
		通年	4	単位					
担当講師	滝口 準一								
	実務経験	有	大手ペットフード会社で40年以上勤務。年間4000件以上のペットに関する相談の対応。現在もペットフードに関する協会で活躍中。						
授業概要	愛玩動物看護師は獣医療に携わるだけでなく、動物の専門家として、ヒトと動物が関係するさまざまな領域に環域が広がることを意味しています。愛玩動物の適正飼養に関する動物の保護、動物取扱業、マイクロチップなどの個体識別管理等の充実や動物愛護管理行政及び災害に係る平時や災害時の飼い主や避難所での支援等があり、これらに関して、指導者的役割を担い、市民の暮らしの安心安全に寄与することが期待されています。さらに愛玩動物看護師は愛玩動物の高齢化に伴い、終末期には愛玩動物だけでなく飼い主へのケアが重要で、飼い主と愛玩動物によりそい、安心できる獣医療を提供するための必要なコミュニケーションの要としても社会的役割を果たして行く存在です。当該授業は実社会を反映している内容であり、愛玩動物看護師が社会の中でその期待されている役割を学び、愛玩動物看護師として動物との共生の未来を考えていく学びを通して、これらの知識をしっかりと参照し、実務に生かせるようにバックアップしていくものです。						授業形式	演習	
到達目標	国家試験合格、愛玩動物看護師としてその愛玩動物のあるべき飼養、生活環境、所属業界等、正しい有り様を知識として学び、将来携わる様々な問題解決に活かす土台をも構築するものです。								
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻・復習配布プリント・過去問題プリント								

授業計画	授業内容
1~2	・1.はじめに(学習の展開解説)　1.適正飼養とは　2.愛玩動物飼養の現場 3.愛玩動物によって人間が受ける影響と問題点・問題
3~4	・1. 動物終末期(飼い主)ケアの総論と動物看護師の役割　2. 動物医グリーフケア　3. ペットロス　・問題
5~6	・1. 適正使用に関する支援の目的と活動(民間団体等によるものを含む)　2. 動物取扱業者における適正 適正飼養 3. 愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策　・問題
7~9	・4. 問題行動予防のための適切な飼養方法としてしつけ、飼い主に指導すべき事柄や方法 1. 災害時におけるペットの救護対策ガイドライン　2. 同行避難　・問題
10~12	・3. 災害対策における基本的な視点　4. 平常時及び災害時の飼い主の備え　5. 動物看護師の平常時における役割 ・問題
13~14	・6. 動物看護師の災害時における役割　1. 動物愛護管理行政とは　2. 適正使用の普及啓発　・問題
15~16	・3. 犬と猫の引き取りと負傷動物の収容　4. 動物取扱業の規制　1. 犬と猫の使用環境整備に関する法律・基準
17~18	・2. 犬の飼養環境整備　3. 猫の飼養環境整備　4. ペット共生の現状
19~20	・5. 犬たちの暮らし方-環境整備・管理の方法-　6.猫たちの暮らし方-環境整備・管理の方法- 7. シニアペットとの暮らし方-環境整備・管理の方法-
21~22	・1. ペットツーリズムの現状と実施方法　2.ペット同伴宿泊施設の環境整備と管理　3.ドッグランの環境整備と管理
23~24	・4. ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興　1. 動物愛護管理センター等の役割 2. 動物収容保護施設での飼養管理
25~27	・3. 災害時のシェルターの役割　4.シェルターメディスン　1. ペット飼育に関する課題
28~30	・2. ペット飼育の課題と教育の関係性　3. 飼い主教育における愛玩動物看護師の役割　4. 社会化トレーニングの基礎
31~32	・5. パピークラスにおける教育内容　6. 教育施設の種類
33~34	・1. 法的背景　2. 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理
35~36	・1. 飼育マナーの必要性や目的　2. 飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い
37~38	・3. 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種条例 4. 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナー
39~40	・5. ペット保険の概要　1. ペット関連産業における責任と社会的役割
41~42	・2. 商取引における関連法規の概要　1. ペットの飼育実態
43	・3. 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法
44~45	・2. 各ペット産業の市場規模　3.ペット産業全体の市場規模
46~47	・1. ペット産業の分類　2.動物病院の現状
48~49	・3. 動物病院以外のサービス業の現状　4. 生体販売業の現状
50~51	・5. ペットショップの現状　6.その他ペット産業の現状
52~53	・1. 動物取扱業制度の概要 2. 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱い方法及び衛生管理
54~56	・対策と総まとめ1
57~60	・対策と総まとめ2

成績評価方法		定期試験		
	・出席率		前期○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		後期○	実施しない

成績評価基準		
	A評価	出席率90%以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト80点以上・平常点 普通
	C評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト60点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

成績評価基準		
	A評価	出席率100%・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99~90%以上・定期試験や小テスト99~90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89~80%以上・定期試験や小テスト89~80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	老齢動物臨床検査学						必修・選択必修の別	選択必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	2	単位				
担当講師	琴寄 昌子、渡邊 愛海、中村 琴音							
	実務経験	有	動物病院に勤務経験を活かし、実践的に指導することができる					
授業概要	伴侶動物の寿命が延びていることから、高齢動物が占める割合が増えているが、高齢のための症状は様々にわたり、看護援助技術にも配慮が必要となる。動物看護師として高齢動物に適切な介助ができるよう看護的および衛生的ケアを老齢パートナードッグに施すことで介護を理解する。クラスを半分に分け、看護ケアと衛生ケアを隔週で入替えて実習を行う。						授業形式	演習
到達目標	・老犬が陥りやすい状態や起こりやすい病気を把握し、そのような動物に対する適切なケアができるようになる。 ・リハビリテーションの基本ができるようになる。 ・ケアの一環としてのグルーミングができるようになる。							
教科書・教材・服装等	実習着、グルーミング道具							

授業計画	授業内容
1～2	実習オリテン
3～4	高齢動物とは
5～6	マッサージ・ストレッチ方法
7～8	犬別疾患別の計画及び実践（レントゲン読影・エコー検査）
9～10	水中療法（ウォータートレッドミル）の座学
11～12	水中療法の実践
13	老齢動物のための適切な環境づくり
14～15	犬別疾患別の計画及び実践（筋・腱の働き）
16～17	病態評価（ゴニオメーター）
18～19	犬別疾患別の計画及び実践（レントゲン読影・エコー検査）
20～21	レーザーの種類と効能
22～23	創傷治癒
24～25	犬別疾患別の計画及び実践（レントゲン読影・エコー検査）
26～27	老齢動物のための適切な環境づくり
28～30	課題（パートナーアニマルの紹介POP作り 他）

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・小テスト、課題提出			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	老齢動物管理演習						必修・選択必修の別	選択必修
実施期	1年	前期	- 単位	後期	- 単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	5 単位
		通年	- 単位					
	2年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	- 単位					
	3年	前期	- 単位	後期	- 単位			
		通年	5 単位					
担当講師	琴寄 昌子、渡邉 愛海、中村 琴音							
	実務経験	有	動物病院の勤務経験を活かし、実践的に指導することができる					
授業概要	伴侶動物の寿命が延びていることから、高齢動物が占める割合が増えているが、高齢のための症状は様々にわたり、看護援助技術にも配慮が必要となる。動物看護師として高齢動物に適切な介助ができるよう看護的および衛生的ケアを老齢パートナードッグに施すことで介護を理解する。クラスを半分に分け、看護ケアと衛生ケアを隔週で入替えて実習を行う。						授業形式	演習
到達目標	・老犬が陥りやすい状態や起こりやすい病気を把握し、そのような動物に対する適切なケアができるようになる。 ・リハビリテーションの基本ができるようになる。 ・ケアの一環としてのグルーミングができるようになる。							
教科書・教材・服装等	実習着、グルーミング道具							

授業計画	授業内容
1～6	実習オリテン / 老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
7～12	高齢動物とは / 老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
13～18	マッサージ・ストレッチ方法/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
19～24	犬別疾患別の計画及び実践/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
25～30	水中療法（ウォータートレッドミル）の座学/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
31～36	水中療法の実践/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
37～42	老齢動物のための適切な環境づくり/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
43～48	犬別疾患別の計画及び実践（筋・腱の働き）/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
49～54	病態評価（ゴニオメーター）/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
55～60	犬別疾患別の計画及び実践（レントゲン読影・エコー検査）/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
61～66	レーザーの種類と効能/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
67～72	創傷治癒/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
73～78	犬別疾患別の計画及び実践（レントゲン読影・エコー検査）/老齢動物のためのｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴
79～81	老齢動物のための適切な環境づくり/ｹｱ・ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ技術・薬浴

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・課題提出			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物臨床看護実習Ⅲ						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	5 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	5	単位				
担当講師	西村 壽、遠藤 征明、太田 紘平、動物看護スタッフ							
	実務経験	有	動物病院開業の経験を活かし、また外科医としての技術・知識をもとに学生に指導することができる。					
授業概要	術前の準備や手術補助、術前・術後管理、麻酔法を学ぶ。 その他、今まで学んできたレントゲン検査や心電図検査など復習を行う。						授業形式	実習
到達目標	動物看護師として、実際の手術に関わることで実践力を養う。3年間の実習で学んできた検査やその検査手順などを復習し、動物病院に就職した際に即戦力になれる動物看護師を目指す。							
教科書・教材・服装等	『動物看護実習テキスト』、授業内共有プリント							

授業計画	授業内容
1~3	白血球分類復習と通常の検査実習を行う。皮下注射の練習を行う。
4~6	通常の検査実習、皮下注射の練習を行う。
7～9	猫実習・猫の超音波検査を行う。
10~12	手術実習のオリエンテーションを行う。実際に手術を見学し、実践に向け準備をする。
13~15	心肺蘇生法(心臓マッサージ、人工呼吸』を練習し、緊急事態に対応できるようにする。①
16~18	麻酔下の動物の管理法と歯石除去法を学ぶ。
19~21	手術器具、各種滅菌法、術野消毒を学ぶ。
22~24	心肺蘇生法(心臓マッサージ、人工呼吸』を練習し、緊急事態に対応できるようにする。②
25~27	カテーテル導尿の手技を学び、カテーテル導尿ができるようになる。
28~30	縫合糸について学ぶ。手術補助の手技を身につける。
31~33	手術における手洗い法とグローブ装着・リネン準備について学ぶ。
34~36	猫実習/神経学的検査の復習を行う。
37~39	ライトギムザ（WG）染色の検査意義と手技を学び実践する。
40~42	犬去勢手術実習に向けたカンファレンス・術前準備を行う。
43~45	犬の去勢手術を実施する。
46~48	犬避妊手術実習に向けたカンファレンス・術前準備を行う。
49~51	橈側皮静脈の採血の手順と注意点を学ぶ。
52~54	犬の避妊手術を実施する。
55~57	血管確保、皮下輸液や静脈内輸液の準備や補助、管理法を身につける。
58~60	猫実習/貧血塗抹標本ニューメチレンブルー染色復習
61~63	一般家庭犬の扱い方を知り、色々なタイプの犬の扱いを学ぶ。
64~66	小動物の扱いを練習する。
67~69	レントゲン検査における股関節撮影の保定を身に付ける。
70~72	皮膚掻把検査やダーマッキトを用いた皮膚検査の復習を行う。
73~75	通常実習/実技テスト①を行う。
76~78	猫実習/実技テスト②を行う。

79~81	包帯・腹帯について知識を学び、その手技を実施する。
82~84	橈側皮静脈の採血の手順の復習を行い、手技を身につける。
85～87	輸血における検査（クロスマッチ・血液型判定）の検査意義を学び、手技を身に付ける。
88~90	通常実習/膣スメア検査の手技を学ぶ。
91～93	通常実習/橈側皮静脈採血練習を行う。
94～96	犬の超音波検査を復習する。
97～100	獣医師の薬局業務を学ぶ。
101～103	炎症について学ぶ。CRPの検査意義を学ぶ。
104～106	猫のレントゲン撮影における保定技術を習得する。
107～109	入院管理や給餌補助を学ぶ。
110～112	病理組織検査（細胞診・標本作成）について学ぶ。
113～115	動物看護過程のアセスメント（SOAP）を考え実践する。
116～118	動物看護過程のシミュレーションを行う。
119～121	犬の手術実習に向けたカンファレンス・術前準備を行う。
122～124	一般家庭犬の扱い方を知り、色々なタイプの犬の扱いを学ぶ。
125～127	犬の避妊・去勢手術と短頭種の麻酔管理について学ぶ。
128～130	犬の給餌方法について学ぶ。実習内で学んだ内容の国試対策を行う。
131～133	グラム検査の検査意義を学び、手技を取得する。
134～136	一般家庭で飼育された猫の扱いを学ぶ。
137～139	犬の避妊・去勢手術における麻酔管理や手術補助を学ぶ。
140～142	留置設置・輸液復習を行う。犬の外側伏在静脈の採血手順を確認する。
143～145	グラム検査の検査意義を学び、手技を取得する。
146～148	犬の外側伏在静脈の採血手順の確認を行い練習する。
149～151	実技テストに向けた復習を行う。
152～154	小動物実習の保定法を習得する。
155～157	実技試験を行う。
158～160	猫実習/貧血塗抹標本ニューメチレンブルー染色復習を行う。
160～162	実習の総復習を行う。

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・定期試験や小テスト		○	実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率90％以上・実技試験・平常点（提出物含む） 優れている
	B評価	出席率80％以上・実技試験・平常点（提出物含む）平常点
	C評価	出席率80％以上・実技試験・平常点（提出物含む）やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物看護総合実習						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	6 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	6 単位		
		通年	-	単位				
担当講師	各企業様							
	実務経験	有	各企業現場指導者様					
授業概要	動物病院で実際の動物看護業務を実践し、身に着つけた知識や技術を総合的に実践する。また動物病院以外の動物関連職種のインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。						授業形式	実習
到達目標	動物病院の業務を自ら行動し、実践できるようになる。							
教科書・教材・服装等	教科書なし。実習着							
授業計画	授業内容							
1～180	各企業での施設の見学、各企業の接客ルールやマナーの習得。							
	店舗での実践的な実習。							
	３つの企業をそれぞれ７日間程度インターンシップを行う。							
成績評価方法	・企業担当者による勤務・業務管理を実習手帳上で行う				定期試験		筆記試験	
	・レポート提出						実技試験	
						○	実施しない	
成績評価基準	R評価	180時間以上のインターンシップ実績があること。実習手帳、レポートを提出した者						
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合						

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	コミュニケーション					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	1 単位				
担当講師	植田 慎司						
	実務経験	無					
授業概要	社会人として必要な知識やコミュニケーション能力を学校生活を通じて会得していく。					授業形式	講義
到達目標	社会人としてのビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付ける。						
教科書・教材・服装等	無し						

授業計画	授業内容
1	３年次の学校生活について①
2~3	学校行事についてのディスカッション①
4~5	学校行事についてのディスカッション②
6~7	学校行事についてのディスカッション③
8~9	学校行事についてのディスカッション④
10~11	学校行事についてのディスカッション⑤
12~13	学校行事についてのディスカッション⑥
14~15	学校行事についてのディスカッション⑦
16~17	学校行事についてのディスカッション⑧
18~19	学校行事についてのディスカッション⑨
20~21	学校行事についてのディスカッション⑩
22~23	学校行事についてのディスカッション⑪
24~25	学校行事についてのディスカッション⑫
26	学校行事についてのディスカッション⑬
27	学校行事についてのディスカッション⑭

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実技試験
			○	実施しない

成績評価基準	R評価	出席率80％以上・提出物・平常点 優れている
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合

2025就職ガイドシラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	就職ガイド						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	1	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
担当講師	小園達郎							
	実務経験	無						
授業概要	動植物業界で求められる人材の育成。企業インターンシップや就職活動での必要な知識を身につけ内定へと繋げる。						授業形式	講義
到達目標	自己分析と企業研究を行い、全員が内定を頂ける様にしていく事を目標とする。							
教科書・教材・服装等								

授業計画	授業内容
1	就職室の紹介/就職活動に向けて（内定スケジュール）
2	履歴書の復習(自己PR・志望動機)・採用試験の流れ・夏季ISについて
3	メールの送り方
4	企業説明会①
5	企業説明会②
6	求人情報の紹介
7	IS事前準備①
8	ISを依頼する際の電話の掛け方・ロールプレイング
9	面接対策
10	IS事前準備②（実施確認書と注意点）
11	夏休み中の就活の取り組み方
12	お礼状・送付状の作り方
13～14	IS心構えとフィールドワーク・レポート提出

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・期末レポート提出			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない
成績評価基準	R評価	出席率80％以上・提出物・平常点 優れている		
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合		

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	国試対策						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	-	単位	後期	- 単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	-	単位				
	2年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	-	単位				
	3年	前期	-	単位	後期	- 単位		
		通年	2	単位				
担当講師	森本　正樹							
	実務経験	有	動物病院に勤務経験を活かし、実践的に指導することができる					
授業概要	授業内で解いた問題の解説をする						授業形式	講義
到達目標	国家試験を受験するにあたり、必要となる知識の復習・定着							
教科書・教材・服装等	なし							

授業計画	授業内容
1～5	2年次模擬試験問題の解説
6～10	エデュワードCBTシステムを用いた解説
11～15	学生自身に問題作成ならびに解説までを行わせる（講師による補足説明あり）
16～20	模擬試験問題の解説
21～25	エデュワードCBTシステムを用いた解説
26～36	学生自身に問題作成ならびに解説までを行わせる（講師による補足説明あり）

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・国試模擬試験			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合